

取扱説明書

形名 **RSS-AZ77**
レグザサウンドシステム

このたびはレグザサウンドシステムをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

お求めのレグザサウンドシステムを安全に正しく使っていただくため、お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みください。

お読みになったあとは、いつも手元に置いてご使用ください。


ご使用前に、「安全上のご注意」(4～9 ページ)を必ずお読みください。

本機でできること

本機は簡単な設置・接続で、迫力のサウンドをお楽しみいただけるサウンドシステムです。


- テレビの後ろ（背面）に設置できるので、テレビの操作性やデザインに影響しない
- DTS Studio Sound™ 搭載で、臨場感あふれるサウンド
- ジャンルに合った音質で楽しめる
- HDMI® ケーブルでかんたん接続
- Bluetooth® 対応のスマートフォンやタブレットの音楽ファイルを、ワイヤレス再生
- テレビのリモコンで連動操作（HDMI 連動機能：レグザリンク）

ライセンスおよび商標などについて

 Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社東芝及び東芝ライフスタイル株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

 HDMI® HDMI, HDMI High-Definition Multimedia Interface 及び HDMI ロゴは、米国およびその他の国々における HDMI Licensing, LLC の商標又は登録商標です。

 DOLBY® DIGITAL Dolby, ドルビー及びダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの登録商標です。

 **dts**
Studio Sound For DTS patents, see <http://patents.dts.com>.
Manufactured under license from DTS Licensing Limited. DTS, the Symbol, & DTS and the Symbol together are registered trademarks, and DTS Studio Sound is a trademark of DTS, Inc.
© DTS, Inc. All Rights Reserved.

ルームトウシバ

お客様登録サービス「Room1048」に登録をお願いします！

Room1048 は東芝デジタル商品のお客様登録サービス*です。
ご登録いただくと、さまざまなサービスやサポートが受けられます。
※ お客様登録は、Web限定のサービスです。

>>>ご登録はこちらから！<<<

<http://toshibadirect.jp/room1048/>

目次




本機でできること	2
ライセンスおよび商標などについて	2
安全上のご注意	4
同梱物を確認する	10
各部の名前とはたらき	11
サブウーファー	11
リモコン	12
準備をする	13
サウンドシステムを設置する	13
サテライトスピーカーを接続する	14
HDMI (ARC) 対応のテレビと接続する	15
赤外線レシーバーを接続する	15
AC アダプターを接続する	15
HDMI 対応機器と接続する場合	16
アナログ機器と接続する場合	16
リモコンの準備をする	17
リモコンの電池の取り換えかた	17
音声を楽しむ	18
基本的な操作	18
Bluetooth 対応機器を聴く	19
オートモード (AV システム音声連動) について	20
レグザリンクについて	20
レグザリンクでできること	21
故障かな?と思ったとき—症状に合わせて解決法を調べる	22
本機が全く操作できなくなったとき—本機をリセットする	22
本機を初期化する	22
操作	22
音声	23
HDMI 関連	24
Bluetooth 関連	24
仕様	25
Bluetooth について	26
保証とアフターサービス	27

安全上のご注意

必ずお守りください

製品本体および取扱説明書には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容(表示・図記号)をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

■ 表示の説明







表示	表示の意味
 危険	“取扱いを誤った場合、人が死亡または重傷* ¹ を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、人が死亡または重傷* ¹ を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、人が軽傷* ² を負うことが想定されるか、または物的損害* ³ の発生が想定されること”を示します。

*1：重傷とは、失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

*2：軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

*3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■ 図記号の例

図記号	図記号の意味
 禁止	“  ”は、 禁止 (してはいけないこと)を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 指示	“  ”は、 指示 する行為の強制(必ずすること)を示します。 具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。
 注意	“  ”は、 注意 を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

異常や故障のとき

警告

- 異常に熱くなったり、異臭がしたり、煙が出たりした場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。安全を確認してからお買い上げの販売店にご連絡ください。

- 内部に水や異物がいったり、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お買い上げの販売店に点検をご依頼ください。

- 落としたり、キャビネットを破損したときは、すぐに電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お買い上げの販売店に点検をご依頼ください。

- ACアダプターが発熱したり、コードが傷んだりしたときは、すぐに電源を切り、ACアダプターが冷えたのを確認して電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。コードが傷んだら、お買い上げの販売店に交換をご依頼ください。

使用するとき

警告

- 修理・改造・分解はしない



分解禁止

火災・感電の原因となります。点検・修理はお買い上げの販売店にご依頼ください。

- スピーカーは付属のものを接続する



指示

付属以外のスピーカーを接続すると、本機の故障や火災の原因となることがあります。

- 本機の開口部に手や足を入れない



禁止

誤って本機の落下によるけがの原因となることがあります。

●特にお子様にはご注意ください。

- 内部に異物を入れない



異物挿入禁止

ステーブル、クリップなどの金属類や紙などの燃えやすいものが内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 雷が鳴りだしたら、本機やACアダプターに触れない



接触禁止

感電の原因となります。

- 可燃性ガスエアゾールやスプレーを使用しない



禁止

清掃や可動部の潤滑用など、可燃性ガスを本機に使用すると、噴射される可燃性ガスが本機の内部に留まり、スイッチの接点や静電気の火花が引火して、爆発や火災が発生するおそれがあります。

- 水にぬらしたりしない



水ぬれ禁止

火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

注意

■ 大音量で長時間聴き続けない



耳を刺激するような大きな音量で聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

■ 本機の上に時計などの磁気の影響を受けやすいものを置かない



正常に動作しなくなることがあります。

禁止

設置するとき

警告

■ 屋外や風呂、シャワー室など、水のかかるおそれのある場所には置かない



火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室での使用禁止

■ 上にもものを置かない



上載せ禁止

- 金属類や、花びん・コップ・化粧品などの液体が内部にはいった場合、火災・感電の原因となります。
- 重いものなどが置かれて落下した場合、けがの原因となります。

■ ぐらつく台の上や傾いた所など、不安定な場所や振動のある場所に置かない



禁止

本機が落ちて、けがの原因となります。

注意

■ 温度の高い場所に置かない



禁止

直射日光の当たる場所・閉め切った自動車内・ストーブのそばなどに置くと、火災・感電の原因となることがあります。また、破損、その他部品の劣化や破損の原因となることがあります。

■ 湿気・油煙・ほこりの多い場所に置かない



禁止

加湿器・調理台のそばや、ほこりの多い場所などに置くと、火災・感電の原因となります。

■ 風通しの悪い場所に置かない



禁止

内部温度が上昇し、火災の原因となることがあります。

- じゅうたんや布団の上に置かないでください。
- テーブルクロス・カーテンなどを掛けたりしないでください。
- 押し入れや本箱など風通しの悪い場所に押し込まないでください。
- 壁に押しつけないでください。

■ 移動させる場合は、ACアダプター・接続コードをはずす



指示

ACアダプターをはずさずに運ぶと、コードが傷つき火災・感電の原因となることや、接続コードなどをはずさずに運ぶと、本機が落下し、けがの原因となることがあります。

ACアダプターと電源コードについて

警告

■ 電源プラグは家庭用交流100Vのコンセントに接続する



指示

交流100V以外を使用すると、火災・感電の原因となります。

■ ACアダプターを分解・改造・修理しない



分解禁止

火災・感電の原因となります。

■ ACアダプターのコード・電源コードは



禁止

- 傷つけたり、延長するなど加工したり、加熱したりしない
 - 引っ張ったり、重いものを載せたり、はざんだりしない
 - 無理に曲げたり、ねじったり、束ねたりしない
- 火災・感電の原因となります。

■ 時々電源プラグを抜いて点検し、プラグやプラグの取り付け面にゴミやほこりが付着している場合はきれいに掃除する



指示

プラグの絶縁低下によって、火災の原因となります。
(電源プラグは電源オフのときに抜いてください。)

■ 通電中のACアダプターにふとんをかけたり、暖房器具の近くやホットカーペットの上に置かない



禁止

火災、故障の原因となることがあります。

■ 水のかかる場所で使用しない



禁止

火災・感電の原因となります。

■ コンセントから電源プラグが抜きやすいように設置する



指示

万一の異常や故障のとき、または長期間使用しないときなどに役立ちます。

⚠ 注意

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない



ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ 電源プラグをコンセントから抜くときは、コードを引っ張って抜かない



引っ張り禁止

コードを引っ張って抜くと、コードやプラグが傷つき、火災・感電の原因となります。電源プラグを持って抜いてください。

■ ACアダプターは、付属のものを使用する



指示

指定以外のACアダプターを使用すると、火災・故障の原因となります。付属のACアダプターは国内専用です。

■ 電源コードは、付属のものを使用する



指示

付属の電源コードは、本機付属のACアダプター以外には使用しないでください。
付属の電源コードは、本機付属のACアダプター専用です。

■ 旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜く



プラグを抜く

万一故障したとき、火災の原因となることがあります。

■ 付属のACアダプターを本機以外の他の用途に使用しない



禁止

本機以外の他の用途に使用すると、火災・故障の原因となります。

■ 電源プラグはコンセントの奥まで確実に差し込む



指示

確実に差し込んでいないと、火災・感電の原因となります。

コイン型電池について



警告

- コイン型電池は、幼児の手の届く場所に置かない



禁止

コイン型電池をお子様飲み込んだりすると、中毒の原因となります。もし、飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。



注意

- リモコンに使用しているコイン型電池は



禁止

- 指定以外の電池は使用しない
- 極性表示 [(+) と (-)] を間違えて挿入しない
- 充電・加熱・分解・ショートしたり、火の中へ入れない
- 表示されている [使用推奨期限] を過ぎたり、使い切った電池はリモコンに入れておかない

これらを守らないと、液もれ・破裂などによって、やけど・けがの原因となることがあります。もし、液が皮膚や衣類についたときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。液が目にはいったときはすぐにきれいな水で洗い医師の治療をうけてください。器具に付着した場合は、液に直接触れないで拭き取ってください。

- コイン型電池を廃棄する場合は、(+) と (-) にそれぞれビニールテープなどをはる



指示

そのまま廃棄すると、金属類でのショートによって、液もれ・発熱・破裂し、やけど・けがの原因となることがあります。廃棄する場合は、地域や地方自治体などの規則に従って、定められた場所に出してください。

- 開封したコイン型電池を保管・携帯するときは、ポリ袋などに入れる



指示

そのまま保管・携帯すると、金属類でショートして、液もれ・発熱・破裂し、やけど・けがの原因となることがあります。

小型の製品・部品について



注意

- 本機に付属されたリモコンの電池ぶたなどの小型の部品は、幼児の手の届くところに置かない



禁止

誤って飲み込むと窒息やけがの恐れがあります。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

使用上のお願いとご注意

取扱いに関すること

- 本機は人体(四肢を除く)から20cm以上離れた場所に設置して使用してください。
- 移動させるとき
引っ越しなど、遠くへ運ぶときは、振動が伝わらないように、傷がつかないように毛布などでくるんでください。
- 殺虫剤や揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変色したり、塗装がはげるなどの原因となります。
- 長時間で使用になっていると本体が多少熱くなりますが、故障ではありません。
- 本機には大音量スピーカ用磁石が内蔵されています。クレジットカードやビデオテープ、ハードディスクなどの磁気記録媒体からデータが消えてしまう恐れがありますので、これらのものを本機に近づけないでください。

置き場所に関すること

- 本機は水平な場所に設置してください。ぐらぐらする机や傾いている所で使わないでください。
- 直射日光のあたる場所、熱器具の近く、締め切った車内など、温度が高くなる場所に置かないでください。故障の原因となります。

結露(露付き)について

結露は本機を傷めます。よくお読みください。

たとえば、よく冷えたビールをコップにつぐと、コップの表面に水滴がつきます。これを「結露(露付き)」といいます。この現象と同じように、本機の部品、部品内部などに水滴がつくことがあります。

■ “結露” はこんなときおきます。

- 本機を寒いところから、急に暖かいところに移動したとき
- 暖房を始めたばかりの部屋や、エアコンなどの冷風が直接あたるところに置いたとき
- 夏季に、冷房のきいた部屋・車内などから急に温度・湿度の高いところに移動したとき
- 湯気が立ちこめるなど、湿気の多い部屋に置いたとき

■ 結露がおきそうなときは、本機をすぐに使用しない

結露がおきた状態で本機をお使いになりますと、部品を傷めることがあります。その場合は本機を一定の温度の場所にしばらく置いてからご使用ください。

お手入れに関すること

- 本体のよごれは柔らかい布で軽く拭き取ってください。ティッシュペーパーや硬い布は使わないでください。ベンジン、シンナーは絶対使用しないでください。変色したり、塗装がはげたりする原因となります。

本機を廃棄するとき

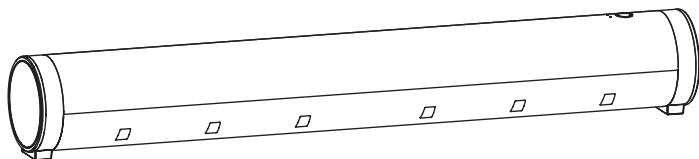
- 廃棄の際は、地方自治体の条例または規則に従ってください。

免責事項について

- 地震や雷などの自然災害および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用によって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害(事業利益の損失・事業の中断など)に関して、当社は一切責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことによって生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切責任を負いません。

同梱物を確認する

以下のものがあることをご確認ください。



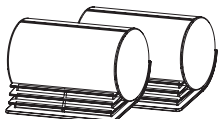
サブウーファー



電源コード付き
ACアダプター
([P.15](#)ページ)



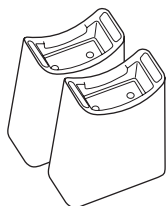
電池付リモコン
([P.12](#)、[P.17](#)ページ)



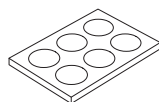
サテライトスピーカー 2個
([P.13](#)、[P.14](#)ページ)



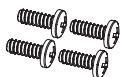
赤外線レシーバー
([P.15](#)ページ)



スペーサー 2個
([P.13](#)ページ)



サテライトスピーカー
立て置き用シール 1枚
([P.13](#)ページ)



ネジ 4本
([P.13](#)ページ)

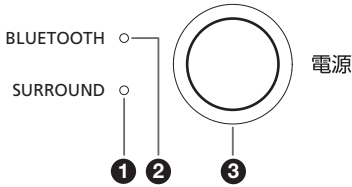


取扱説明書 (本書)

各部の名前とはたらき

サブウーファー

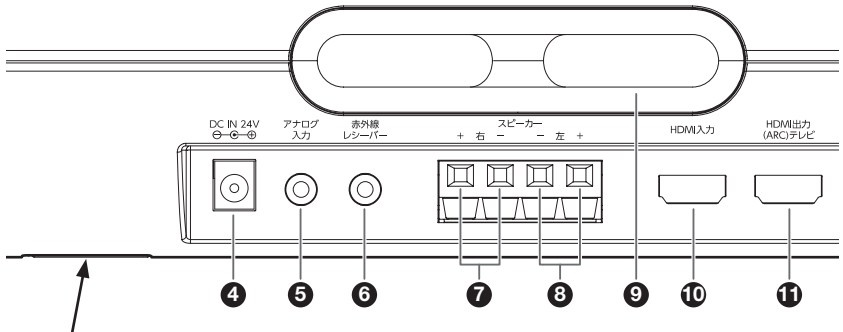
上面



- ①「SURROUND」表示
サラウンド機能が働いているときに点灯します。
- ②「BLUETOOTH」表示
Bluetooth 接続中に点灯し、ペアリングモード中に点滅します。
- ③電源ボタン/「電源」表示
本機の電源を「入」/「切」します。
電源「入」のときに点灯し、ミュート（消音）中に点滅します。

- Dolby® Digital を再生中には「SURROUND」表示、「BLUETOOTH」表示、「電源」表示が同時に点滅します。

背面



※サブウーファー下面の端子は、製造ラインやアフターサービスで使用するものです。お客さまはお使いになれません。

- ④ DC 入力端子 (☞ 15 ページ)
付属の AC アダプターを接続します。
- ⑤ アナログ入力端子 (☞ 16 ページ)
アナログ音声出力端子がある外部機器を接続します。
- ⑥ 赤外線レシーバー端子 (☞ 15 ページ)
付属の赤外線レシーバーを接続します。
- ⑦ 右スピーカー端子 (☞ 14 ページ)
テレビに向かって右側のサテライトスピーカーを接続します。
- ⑧ 左スピーカー端子 (☞ 14 ページ)
テレビに向かって左側のサテライトスピーカーを接続します。

⑨ 空気穴

低音を豊かにします。ふさがないように注意してください。

⑩ HDMI 入力端子 (P. 16 ページ)

HDMI 出力端子のある機器 (レグザリンク対応機器など) を接続します。

⑪ HDMI 出力 (ARC) テレビ端子 (P. 15 ページ)

HDMI 入力端子のあるテレビを接続します。

リモコン

リモコンで操作をすると、サブウーファーからリモコン操作音が鳴ります。



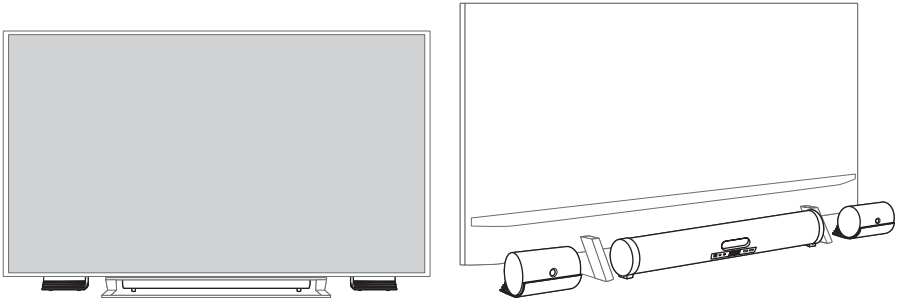
電源 ON	本機の電源を入れます。
電源 OFF	本機の電源を切ります。
音量 +-	本機の音量を調整します。
ミュート	音を一時的に消します。もう一度押すと音が出ます。3秒以上押し続けるとリモコン操作音の「入」/「切」が切り換わります。すばやく繰り返し押すことを3秒以上続けた場合も、リモコン操作音の「入」/「切」が切り換わります。
Bluetoothマーク)	入力がBluetooth機器に切り換わります。3秒以上押し続けるとペアリングモードになります。
アナログ	入力がアナログ外部機器に切り換わります。
HDMI	入力がHDMI機器に切り換わります。
HDMI TV	入力がHDMI ARC接続したテレビに切り換わりません。
オート	自動で番組に適正な音声に調整します。 * AVシステム音声連動に対応するテレビ (レグザ) とHDMIケーブルで接続する必要があります。
音楽	歌番組やライブ番組の視聴に適正な音声にします。
クリア音声	台詞やナレーションに適正な音声にします。
映画	映画の視聴に適正な音声にします。

- リモコンを使用するには、赤外線レシーバーを接続しておく必要があります。(P. 15 ページ)
- サウンドモード (オート、音楽、クリア音声、映画) を切り換えるときに、音が途切れることがあります。
- サウンドモードは、視聴や再生する内容 (ジャンルやデコーダーなど) によっては、効果が得られないことがあります。

準備をする

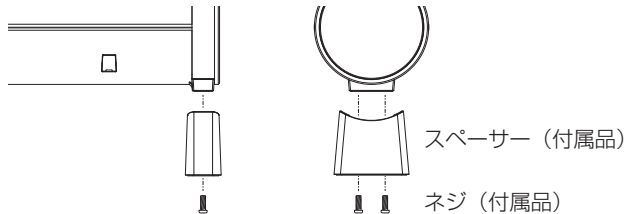
サウンドシステムを設置する

下の図を参考に、テレビの背面に本機を設置してください。

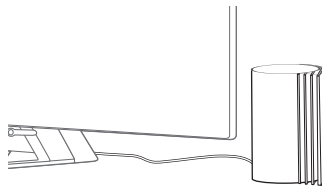


- サテライトスピーカーは、2つとも同じものです。

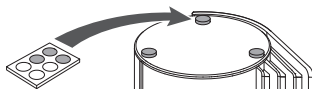
サブウーファーの設置や配線が困難なときは、付属のスペーサーをサブウーファー左右下面の足の部分に取り付けてください。付属のネジで片側2か所ずつ締めてください。プラスドライバー（JIS 1番、直径 5mm）をご用意ください。



サテライトスピーカーは、立てて設置することもできます。



- その際は、サテライトスピーカーの底面側に、付属のサテライトスピーカー立て置き用シールを図の位置に3枚ずつ貼って足にしてください。

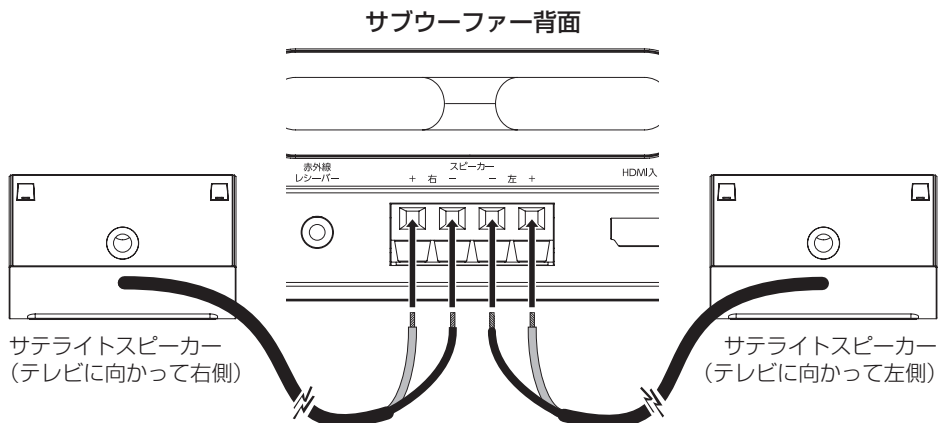


サテライトスピーカーを接続する

サテライトスピーカーは、2つとも同じものです。

テレビに向かって右側（背面から見て左側）のサテライトスピーカーを「右」端子に、テレビに向かって左側のサテライトスピーカーを「左」端子につなぎます。

- スピーカーケーブルの赤を+（プラス）端子に、黒を-（マイナス）端子に差し込みます。
- 接続の際は、本機を傷つけないように、本機の下に柔らかい布などを敷いてください。

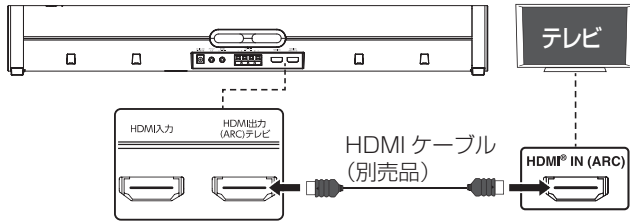


ご注意

- スピーカー端子の+と-をショートさせないでください。
- スピーカーケーブルの被覆部分を、スピーカー端子に挟み込まないように接続してください。

HDMI (ARC) 対応のテレビと接続する

HDMI (ARC) 入力端子があるテレビと本機を HDMI ケーブル (別売品) で接続すると、テレビ音声を本機から出力できます。



テレビが HDMI (ARC) に対応していない場合は、HDMI 接続でテレビと本機をつなげても、テレビ音声は本機から出力されません。

ご注意

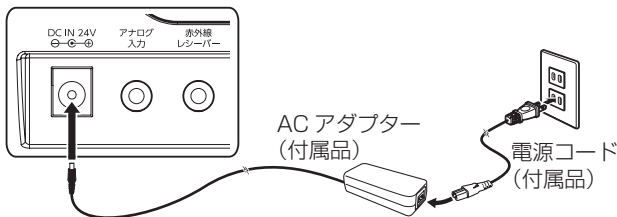
- HDMI ケーブルは、コネクタと端子の形が合うことを確認して、まっすぐきちんと差し込んでください。
- HDMI ケーブルは、HDMI ロゴの表示があるハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。(標準 HDMI ケーブルでは、正常に動作しないことがあります。)

赤外線レシーバーを接続する

付属の赤外線レシーバーをサブウーファー背面の赤外線レシーバー端子に接続します。赤外線レシーバーは、テレビ台の前面などのリモコンの赤外線が届くところに、はくり紙をはがして貼りつけてください。

AC アダプターを接続する

AC アダプターをサブウーファー背面の DC IN につなぎ、AC アダプターに電源コードをつなぎます。スピーカーや外部機器の接続が終わったら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



付属の AC アダプターと電源コード以外のものは、本機に使用しないでください。付属の AC アダプターと電源コードは、本機以外には使用しないでください。

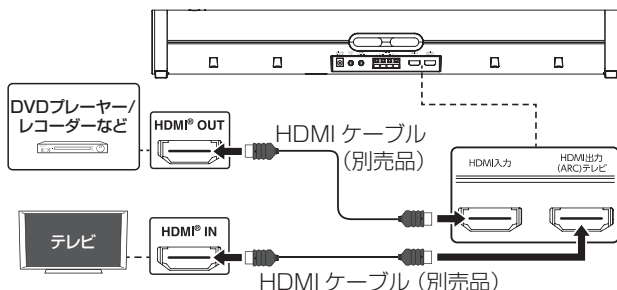
ご注意

- スピーカーや外部機器のすべての接続が終わるまでは、電源プラグをコンセントには差し込まないでください。

HDMI 対応機器と接続する場合

HDMI 対応機器（DVD プレーヤー / レコーダーなど）からの音声を出したり、テレビに音声信号を送信することができます。

1. 本機の HDMI 入力端子と対応機器の HDMI 出力端子を HDMI ケーブル（別売品）でつなぐ
2. 本機の HDMI-ARC 出力端子とテレビの HDMI 入力端子を HDMI ケーブル（別売品）でつなぐ

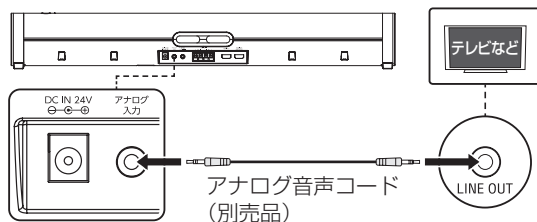


ご注意

- HDMI ケーブルは、コネクタと端子の形が合うことを確認して、まっすぐきちんと差し込んでください。
- 4K 対応機器を 4K 対応テレビと接続する場合、4K 対応機器の HDMI 出力端子とテレビの HDMI 入力端子を HDMI ケーブル（別売品）で接続してください。

アナログ機器と接続する場合

アナログ音声コード（ ϕ 3.5mm プラグ）で、本機のアナログ入力端子と、オーディオ機器のアナログ出力端子をつなぐ



リモコンの準備をする

絶縁シートを引き抜いてからお使いください。

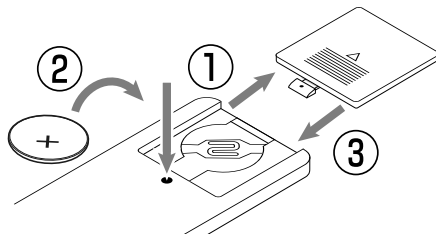


- リモコンは赤外線レシーバーに向けてボタンを押します。リモコンの有効距離は約5 mです。

リモコンの電池の取り換えかた

リモコンが動作しにくくなったり、操作できる距離が短くなったりしたら、新しいコイン型電池（CR2032）と交換してください。

1. リモコン背面の穴を、先の細いもので押しながら、電池カバーをスライドして開ける
2. リモコンに記されている+-の向きに合わせて、新しいコイン型電池（CR2032）に入れ換える
3. 電池カバーを閉じる。

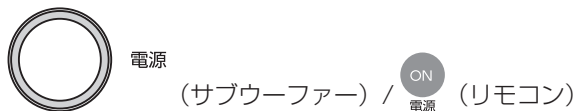


- 使用済の電池は、地方自治体またはお住まいの地域で定められた規則に従って廃棄してください。

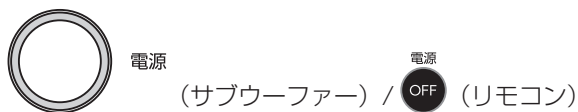
音声を楽しむ

基本的な操作

電源を入れる



電源を切る



入力を選ぶ

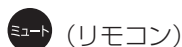


・音声を聴くには、それぞれの機器で再生を始めてください。

音量を調整する



一時的にミュート(消音)する/解除する



サウンドモードを選ぶ





Bluetooth 対応機器を聴く

スマートフォンやタブレットなど、Bluetooth 対応機器に保存した音楽を本機から再生することができます。


Bluetooth 対応機器とペアリング（登録）する

Bluetooth では、あらかじめ接続する機器を登録しておく必要があります。

ペアリング操作は、一度おこなえば次回からは不要です。Bluetooth 対応機器の取扱説明書も参照してください。

1. リモコンの  を押し、Bluetooth ペアリングモードにする
 - ・「BLUETOOTH」表示が点滅し、確認音（ピポパポッ）が鳴ります。Bluetooth 対応機器が本機を検出します。
 2. Bluetooth 対応機器で「RSS-AZ77」を選択する
 - ・本機と Bluetooth 対応機器がペアリングされたら、「BLUETOOTH」表示が点灯し、確認音（ピッ）が鳴ります。
- Bluetooth 対応機器が本機と接続されている時に、新たな Bluetooth 対応機器をペアリングする場合は、リモコンの  を3秒以上押し続けて、Bluetooth ペアリングモードにします。「BLUETOOTH」表示が点滅し、確認音（ピポパッ）が鳴ります。
 - 本機には最大8台までペアリングできます。
 - 9台目以降をペアリングすると、過去に登録した機器が消去されます。再度お使い頂く場合には、ペアリングをやり直してください。

音楽をワイヤレスで再生する

1. リモコンの  を押す
 - ・「BLUETOOTH」表示が点滅し、確認音（ピポパポッ）が鳴ります。
 2. Bluetooth 対応機器を操作して、本機と接続する
 - ・「BLUETOOTH」表示が点灯し、確認音（ピッ）が鳴ります。
 3. 接続した機器を操作して、再生を開始する
 - ・音声が、本機のスピーカーから流れます。
- Bluetooth 対応機器で音楽を再生しているときにテレビの電源を切ると、本機の電源も切れます。
 - 再生、停止などの操作は Bluetooth 対応機器側で操作して下さい。
 - Bluetooth 対応機器の取扱説明書を参照してください。
 - 音量は、本機のリモコンでも調整できます。

Bluetooth 対応機器から切断する

以下のいずれかの手順で Bluetooth 対応機器から切断します。

- ・ Bluetooth 対応機器を操作して接続を切断する。Bluetooth 対応機器の取扱説明書を参照してください。
- ・ 本機のリモコンで他の入力（「アナログ」、「HDMI」、「HDMI TV」）へ切り換える。
- ・ 本機の電源を切る。

オートモード（AV システム音声連動）について

HDMI ケーブルで接続した機器（AV システム音声連動対応）からのジャンル情報に適したサウンドモードに自動的に切り換わります。

- 放送中や外付け / 内蔵ハードディスクに録画した番組のジャンルに合わせて自動的にサウンドモードが切り換わります。
 - ※ 視聴中や再生する番組にジャンル情報が無いときは、特別なエフェクトを施さないモードに切り換わります。
 - ※ アナログ放送には対応していません。
- 対応機器については、ホームページで順次公開する予定です。
(www.toshiba.co.jp/regza)
 - ※ レコーダーやプレーヤーなどからのジャンル情報には対応していません。

ご注意 ● オートモードで視聴中、番組情報に応じてサウンドモードが切り換わるときに、音が途切れることがあります。

レグザリンクについて

HDMI連動機能

- 本機の HDMI 連動機能（レグザリンク）では、HDMI で規格化されている HDMI CEC（Consumer Electronics Control）を利用し、機器間で連動した操作をすることができます。（[P.21](#) ページ）
- 本機と東芝製の HDMI 連動機器（テレビ、レコーダーなど）を HDMI ケーブル（別売品）で接続することで利用できます。
 - ※ HDMI 連動機能を使うには、接続機器それぞれの設定が必要です。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- 対応機器以外の機器を HDMI ケーブルで接続した場合に一部の連動操作ができることがあります。その動作については保証の対象ではありません。また、対応機器であっても、機器によっては一部の連動操作ができない場合があります。
- HDMI 連動機器の接続、設定を変更した場合は以下の操作をしてください。
 - ・接続機器および本機の電源を入れ直してください。
 - ・すべての接続機器の動作を確認してください。
 - ※ 機器に割り振られる番号は接続形態によって変化する場合があります。

レグザリンクの準備

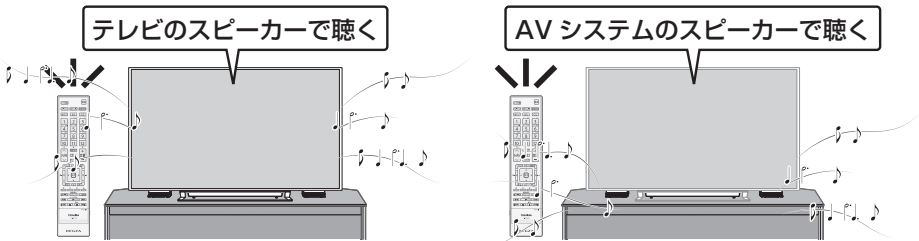
1. 本機とレグザリンク対応の機器（テレビ、レコーダーなど）を HDMI ケーブル（別売品）で接続する。（[P.16](#) ページ）
2. 各機器の HDMI 連動設定をする。
 - ・接続した機器は、機器の取扱説明書に従って設定してください。

レグザリンクでできること

- テレビ（レグザ）のリモコンで操作します。テレビによっては、操作や表示される項目などが異なります。
※ 本機と接続したテレビ（レグザ）の取扱説明書もご覧ください。

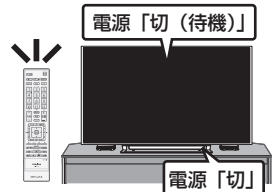
テレビ（レグザ）のリモコンで「音量調整」や「ミュート（消音）」などもできます

スピーカーの切り換えができます
（「テレビのスピーカーで聴く」または「AV システムのスピーカーで聴く」）



電源の「切（待機）」が連動します

- テレビ（レグザ）の電源を切（待機）状態にすると自動的に本機の電源も切になります。（レグザリンクに対応した機器と HDMI ケーブルで接続している場合は、機器の電源も「切（待機）」になります。）



ジャンル情報に合わせて自動でサウンドモードが切り換わります

- テレビ（レグザ）が AV システム音声連動（※ 20 ページ）に対応している機種の場合は、ジャンルに合った適正なサウンドモードに自動的に切り換わります。



- 上記以外の本機に関する操作をする場合は、本機のリモコンを使用してください。
- イラストや画面はイメージで、実際とは異なる場合があります。

故障かな？と思ったとき—症状に合わせて解決法を調べる

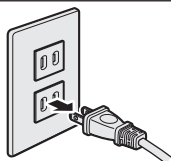
- 本機が正しく動作しないなどの症状があるときは、以降の記載内容から解決法をお調べください。
- 解決法の対処をしても症状が改善されない場合は、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店にご相談ください。
- 表の「☞」の欄は関連事項が記載されているページです。

本機が全く操作できなくなったとき—本機をリセットする

- リモコンでもサブウーファースの操作ボタンでも操作できなくなった場合や、接続機器が認識されないなどの場合は、以下の操作をしてみてください。

リセットのしかた

- ① 電源プラグをコンセントから抜く
- ② 1分間以上待つ
- ③ 電源プラグをコンセントに差し込んで、電源を入れる
・リセット後は、音量は工場出荷時の設定値になります。



本機を初期化する

初期化（工場出荷状態に戻す）のしかた

- ① 本機の電源を入れる
- ② リモコンの **クリア音声** を5秒以上押し続ける
・本機の電源が自動で切れ、工場出荷状態に戻ります。
・ **クリア音声** をすばやく繰り返し押すことを5秒以上続けた場合も、工場出荷状態に戻ります。

操作

電源が入らない

確認すること	解決法・その他	☞
電源コードまたは電源プラグが抜けていませんか。	・電源コードを AC アダプターに差し込みます。 ・電源プラグをコンセントに差し込みます。	15





リモコンで操作ができない

確認すること	解決法・その他	☞
リモコンと赤外線レシーバーの間に障害物はありませんか。	・障害物を取り除きます。	17
リモコンの電池が消耗していませんか。	・新しい電池に交換します。	17
リモコンの電池の向き（+、-）が合っていますか。	・電池の向き（+、-）を確認し、正しく入れてください。	17

確認すること	解決法・その他	ページ
サブウーファースのボタンでは操作ができますか。	・上記の対処をした上で、なおリモコンだけで操作ができない場合は、リモコンの故障が考えられます。お買い上げの販売店にご相談ください。	—

音声

音声がでない

確認すること	解決法・その他	ページ
音量が最小になっていませんか。	 <ul style="list-style-type: none"> ・で音量を上げます。 	18
サブウーファースの「電源」表示が点滅していませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ・を押すとミュート（消音）を解除できます。（でも解除されます） 	18
機器の入力は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・再生したい機器を正しく選択してください。 	18
機器が正しく接続されていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本機と機器との接続を確認します。接続に問題がない場合、ケーブルの異常かもしれません。お手持ちのほかのケーブルで、再度接続してみてください。 ・HDMI（ARC）でテレビと接続している場合、テレビのHDMI（ARC）入力端子へ接続しているか確認します。 	15 16
サブウーファースのスピーカー端子から、スピーカーケーブルがはずれていませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーカーケーブルがはずれていないか確認します。 ・スピーカーケーブルの被覆部分をスピーカ端子に挟み込んでいないか確認します。 	14
テレビのHDMI連動設定で、電源が連動する設定にしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・HDMI連動機能でテレビと本機の電源が「入」になっても、本機から音声が出るまでに、数秒程かかることがあります。 	—
テレビのスピーカー切り換えは正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・HDMI（ARC）でテレビと接続している場合は、テレビのスピーカー切り換えを「AVシステムのス피ーカーで聴く」にしてください。 	—
テレビの光デジタル音声設定は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・HDMI（ARC）でテレビと接続している場合は、テレビの光デジタル音声設定を「PCM」にしてください。 	—

映像と音声が遅れる

確認すること	解決法・その他	ページ
入力切替時やテレビとのスピーカーを切り換えましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本機の入力やスピーカーの切り換え時は、映像と音声が出力されるまでに時間がかかることがあります。特にHDMI入力の切り換え時は接続機器との通信時間により、出力されるまでに数秒から数十秒間かかることがあります。 	—

HDMI 関連

機器を接続しても連動動作ができない

確認すること	解決法・その他	ページ
接続は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> • HDMI ロゴ表示のついた規格に合った HDMI ケーブルで正しく接続します。 ※はじめて HDMI 連動機器を接続したときや、接続を変更したときには、すべての機器が連動しているか確認してください。 	16
対応機器ですか。	<ul style="list-style-type: none"> • 最新情報はホームページ www.toshiba.co.jp/regza でお知らせしています。 ※対応機器の場合でもすべての操作ができるわけではありません。テレビのリモコンで操作できないときは、本機のリモコンで操作してください。 	—
本機と接続機器の設定は正しいですか。	<ul style="list-style-type: none"> • 接続機器側の HDMI 連動設定を確認します。(機器の取扱説明書を参照してください) 	—

テレビの電源を切(待機)にすると、本機の電源も切になる

確認すること	解決法・その他	ページ
テレビの HDMI 連動設定で、電源が連動する設定にしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> • テレビ側の HDMI 連動設定を確認します。(設定については、テレビの取扱説明書を参照してください) 	—

テレビの電源を入にしても、本機の電源が自動で入にならない

確認すること	解決法・その他	ページ
テレビの HDMI 連動設定で、電源が連動しない設定にしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> • テレビ側の HDMI 連動設定を確認します。(設定については、テレビの取扱説明書を参照してください) 	—

Bluetooth 関連

接続できない、もしくは音が途切れる

確認すること	解決法・その他	ページ
近くに無線 LAN など電波を発する機器がありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> • 影響のある機器と本機の設置位置を見直してください。 	26
Bluetooth 対応機器が本機から 10m 程度離れていませんか。	<ul style="list-style-type: none"> • Bluetooth 対応機器を本機に近づけて下さい。 	—
正しくペアリングできていますか。	<ul style="list-style-type: none"> • ペアリングをやり直してください。 	19

仕様

品名	東芝サウンドシステム	
形名	RSS-AZ77	
電源・電圧	入力端子 DC24V、定格電流 2.5A(サブウーファー入力端子) AC100V、50/60Hz (付属の AC アダプター使用時)	
インピーダンス	サテライトスピーカー 8Ω	
外形寸法 (幅×高さ×奥行き)	サブウーファー: 660mm × 95.5mm × 90mm (スタンド含む) サテライトスピーカー: 150mm × 95.5mm × 112.5mm (スタンド、底板含む)	
質量	3.7kg	
スピーカー	サブウーファー	75mm ø × 2
	サテライトスピーカー	33mm × 55mm × 2 (2個)
実用最大出力合計値	80W (非同時駆動、JEITA)	
実用最大出力	サテライトスピーカー: 20W + 20W、 サブウーファー: 40W (非同時駆動、JEITA)	
入出力端子	HDMI入力	19ピン (タイプA) × 1
	HDMI出力 (ARC)	19ピン (タイプA) × 1
	アナログ 入力	3.5mm ステレオジャック × 1
対応フォーマット	Dolby® Digital、リニア PCM	
サラウンド	DTS Studio Sound™	
Bluetooth	バージョン	Ver. 4.0
	送信出力	Class 2
	最大通信 距離	見通し距離 約 10m (環境により異なります)
	対応 プロファイル	A2DP
	使用 周波数帯域	2.4GHz 帯
使用条件	5℃～35℃	

Bluetooth について



無線特性

Bluetooth の無線特性は、製品を購入した国 / 地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。多くの場合、無線通信は使用する国 / 地域の無線規制の対象になります。国 / 地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国 / 地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

● 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る「障害物」がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

現品表示

本機には、次に示す現品表示が記載されています。

	2.4 :	2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す。
	FH :	変調方式が FH-SS 方式であることを示す。
	1 :	想定される干渉距離が 10m 以下であることを示す。
		全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可であることを意味する。

機器認証表示について

本機には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を搭載しています。したがって、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。本機に組み込まれた無線設備は、本機に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。日本国内のみで使用してください。

無線製品の相互運用性

本機に搭載されている Bluetooth は、Frequency Hopping Spread Spectrum (FHSS) 無線技術を使用する Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

Bluetooth Special Interest Group 策定の Bluetooth Specification Ver.4.0

Bluetooth Special Interest Group の定義する Bluetooth ワイヤレステクノロジーの Logo 認証

● 本機はすべての Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。本機のご使用にあたっては、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件ならびに本機との接続可否について当該機器の製造元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

- (1) Bluetooth Version 1.0B 仕様の Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
- (2) 2.4GHz 帯の無線 LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。接続または通信に支障がある場合には、本機の設置位置の見直しや、有線 LAN のご使用をお願いします。

使用上のご注意

本機の使用周波数 (2.4GHz 帯) では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) 及び特定小電力無線局 (免許を要しない無線局) 並びにアマチュア無線局 (免許を要する無線局) が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを、ご確認ください。
2. 万一、本機から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止 (電波の発射を停止) してください。
3. その他、本機から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、「保証とアフターサービス」(P.27 ページ)に記載の「東芝テレビご相談センター」へお問い合わせください。

保証とアフターサービス

必ずお読みください

修理・お取扱いについてご不明な点は

お買い上げの販売店にご相談ください。

販売店にご相談ができない場合は、以下の窓口にご相談ください。

「東芝テレビご相談センター」 【受付時間】 365日/9:00～20:00

【一般回線・PHSからのご利用は】（通話料：無料）

フリーダイヤル

クナン

クローナジ



0120-97-9674

【携帯電話からのご利用は】（通話料：有料）



ナビダイヤル®

0570-05-5100

- IP電話などでフリーダイヤルサービスをご利用になれない場合は（通話料：有料）

03-6830-1048

【FAXからのご利用は】（通話料：有料）

03-3258-0470

- お客様からご提供いただいた個人情報、修理やご相談への回答、カタログ発送などの情報提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、当該製品に関連する株式会社東芝を含む東芝グループ会社や協力会社にお客様の個人情報を提供することがあります。

ホームページに最新の商品情報などを掲載しておりますので、ご参照ください。

www.toshiba.co.jp/regza

※上記のアドレスは予告なく変更される場合があります。

その場合は、お手数ですが、東芝総合ホームページ (www.toshiba.co.jp) をご参照ください。

保証書（一体）

- 保証書は、この取扱説明書に記載されています。
- 保証期間はお買い上げの日から1年間です。
- 保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていたき、内容をよくお読みのと、たいせつに保管してください。

補修用性能部品の保有期間

- サウンドシステムの補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。
- 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

部品について

- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。

修理について

- **お客様が貼られたシールなどについて**
修理の際に、製品ごと取り替えることがあります。その際、表面に貼られているシールなどは失われますので、ご了承ください。
- **保証期間中は**
修理に関しては保証書をご覧ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。
- **保証期間が過ぎているとき**
修理すれば使用できる場合には、ご希望によって有料で修理させていただきます。

保証書

持込修理

品名		東芝サウンドシステム	
形名		RSS-AZ77	
★ お 客 様	お名前	ふりがな	
	ご住所	〒□□□-□□□□	
	電話		
保証期間	本体	1年	★お買い上げ日 □□年□□月□□日から
★ ご 販 売 店	住所・店名		電話

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとで無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

※保証期間経過後の修理について詳しくは取扱説明書の「保証とアフターサービス」（P.27ページ）をご覧ください。

東芝ライフスタイル株式会社

〒198-8710 東京都青梅市末広町2-9

国内サービス部門

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-1-8 東芝万世橋ビル TEL 03-3257-6028

本書は取扱説明書などの注意書による正常なご使用において、上記保証期間中に故障した場合、本書記載内容にしたがって、無料修理をお約束するものです。

保証期間中に故障が発生したときは、本書と商品をご持参のうえ、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

★印欄に記入がないときは無効です。本書をお受け取りの際は必ず記入をご確認ください。

また、本書は再発行しませんので、紛失しないようにたいせつに保管してください。

- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - 誤ったご使用や不当な修理・改造で生じた故障・損傷。
 - お買い上げ後の落下や輸送などで生じた故障・損傷。
 - 火災、天災地変（地震、風水害、落雷など）、塩害、ガス害、異常電圧で生じた故障・損傷。
- 本書のご提示がない場合。
- 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句が書きかえられた場合。
- 一般家庭用以外（たとえば業務用など）に使用された場合の故障・損傷。
- ご使用によるよれ、キズ。

- （チ）塗装面およびメッキ部の摩耗や打痕、プラスチック部の損傷。
- 出張修理を行った場合には出張に要する実費を申し受けます。
- 修理のために取りはずした部品は、特段のお申し出がない場合は当社で引き取らせていただきます。
- 修理の際、当社の品質基準に適合した再利用部品を使用することがあります。
- 本書は日本国内でのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
- 本商品の使用または使用不能による付随的な損害に關しては、保証・補償いたしかねます。
詳しくは取扱説明書をご確認ください。
- ご転居またはご贈答品などで、お買い上げの販売店に修理のご依頼ができない場合には、取扱説明書の「保証とアフターサービス」（P.27ページ）に記載の「東芝テレビご相談センター」窓口にご相談ください。

修理メモ

修理年月日	修理内容	担当
年 月 日		
年 月 日		

<個人情報の取扱いについて>

- 本書にご記入いただいた住所等の情報は、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために利用させていただきますので、ご了承ください。
- 修理のために、当社から修理委託している保守会社などに必要なお客様の個人情報を預託する場合がございますが、個人情報保護法および当社と同様の個人情報保護規程を遵守させていただきますので、ご了承ください。

東芝ライフスタイル株式会社

〒198-8710 東京都青梅市末広町2-9 ※所在地は変更になることがありますのでご了承ください。